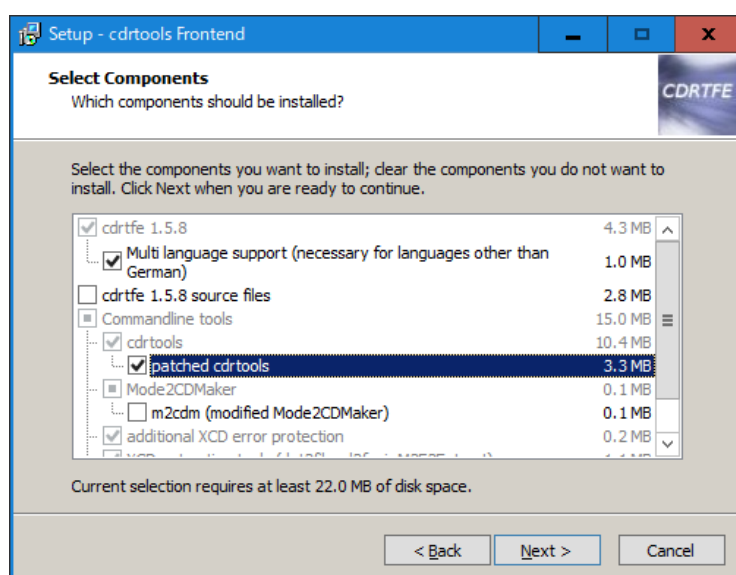


CDRTFE を使用して、CD-ROM EXTRA 仕様のメディアを作成する方法

インストールしたけど USB ドライブが認識されないという事象が出た場合は、公式ページから、Cdrtfе X.XX Setup 版（拡張子.exe のインストーラ）をダウンロードし、patched cdrtools を有効にしてインストールしてください。

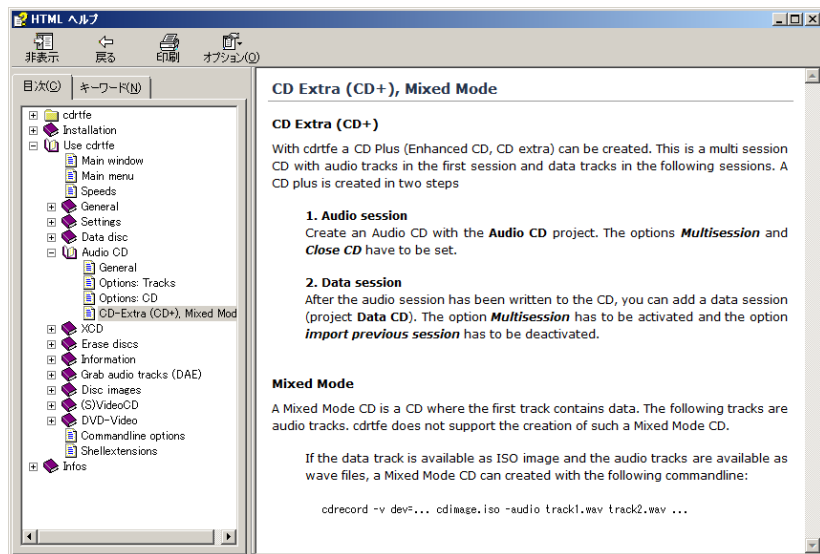


このドキュメントで使用している CDRTFE は、以下の日本語化パッチを適用した状態となります。

<http://donkichirou.blog27.fc2.com/blog-entry-206.html>

作成概要

とりあえずヘルプを参照すると、このような記述があります。

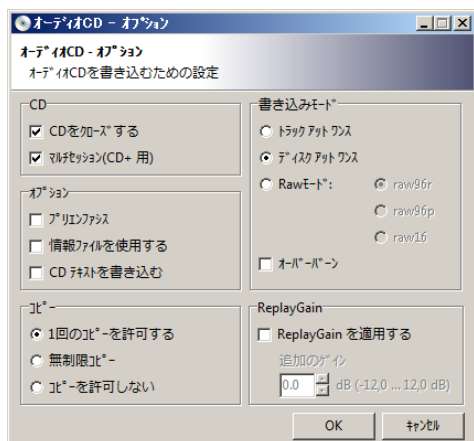


自分の読解力で妄想読みすると以下ようになります。

オーディオセッション

AudioCD タブで作成できる。このとき以下のオプションを選択すること。

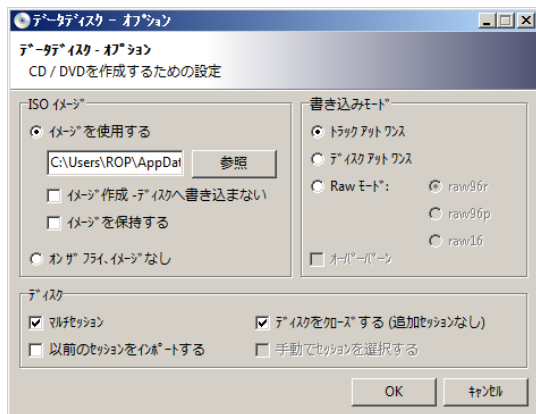
「マルチセッション」「CD を閉じる」



データセッション

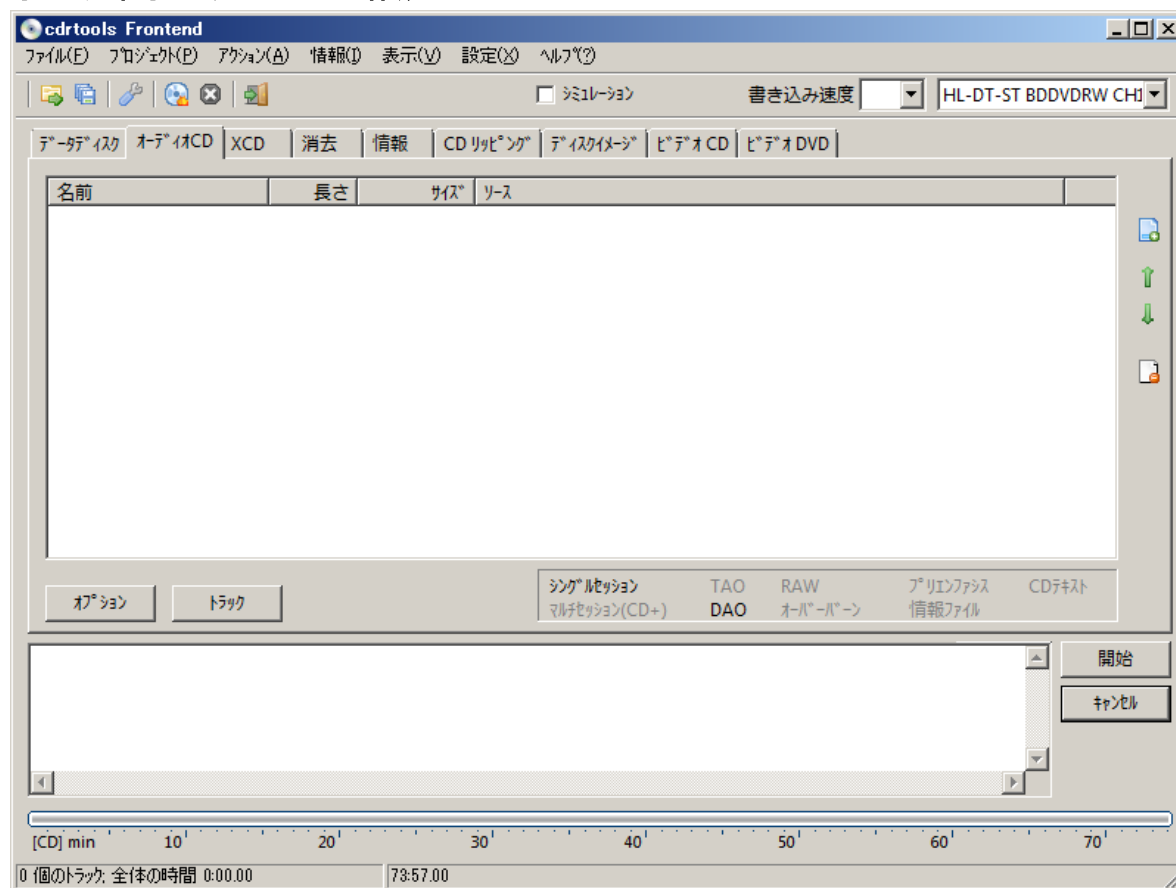
オーディオセッションを焼きこんだ後、データセッションを DataCD タブから追記する。

オプション「マルチセッション」にチェック、「以前のセッションをインポートする」は非選択。

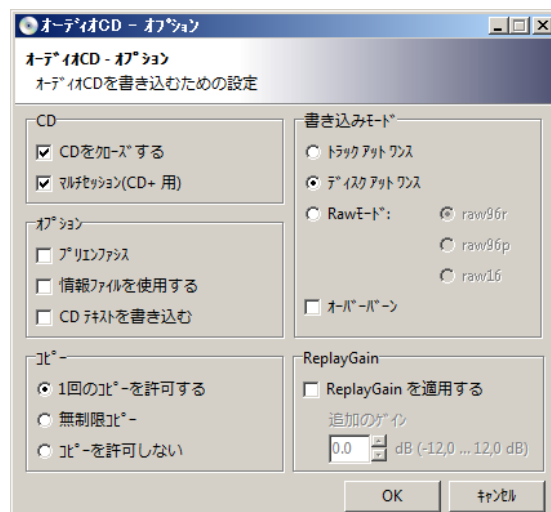
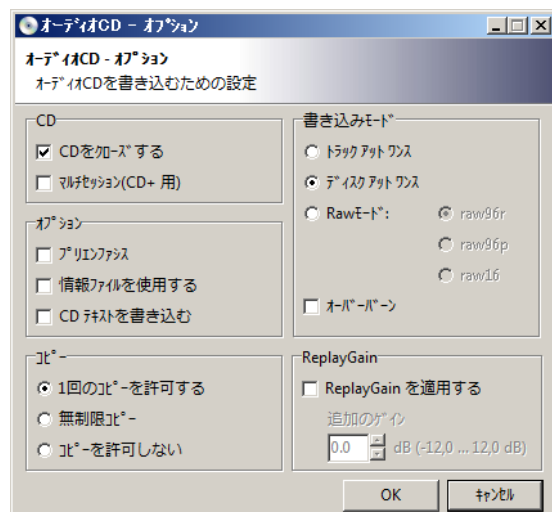


これで作成できるようになるみたいなので、実際に作業して注意点等を確認していこうと思う。

オーディオセッションの作成



CDRTFE を起動し、「オーディオCD」タブを選択すると、上図の状態となる。ここで、おもむろに「オプション」ボタンを押下してオプションを変更する。



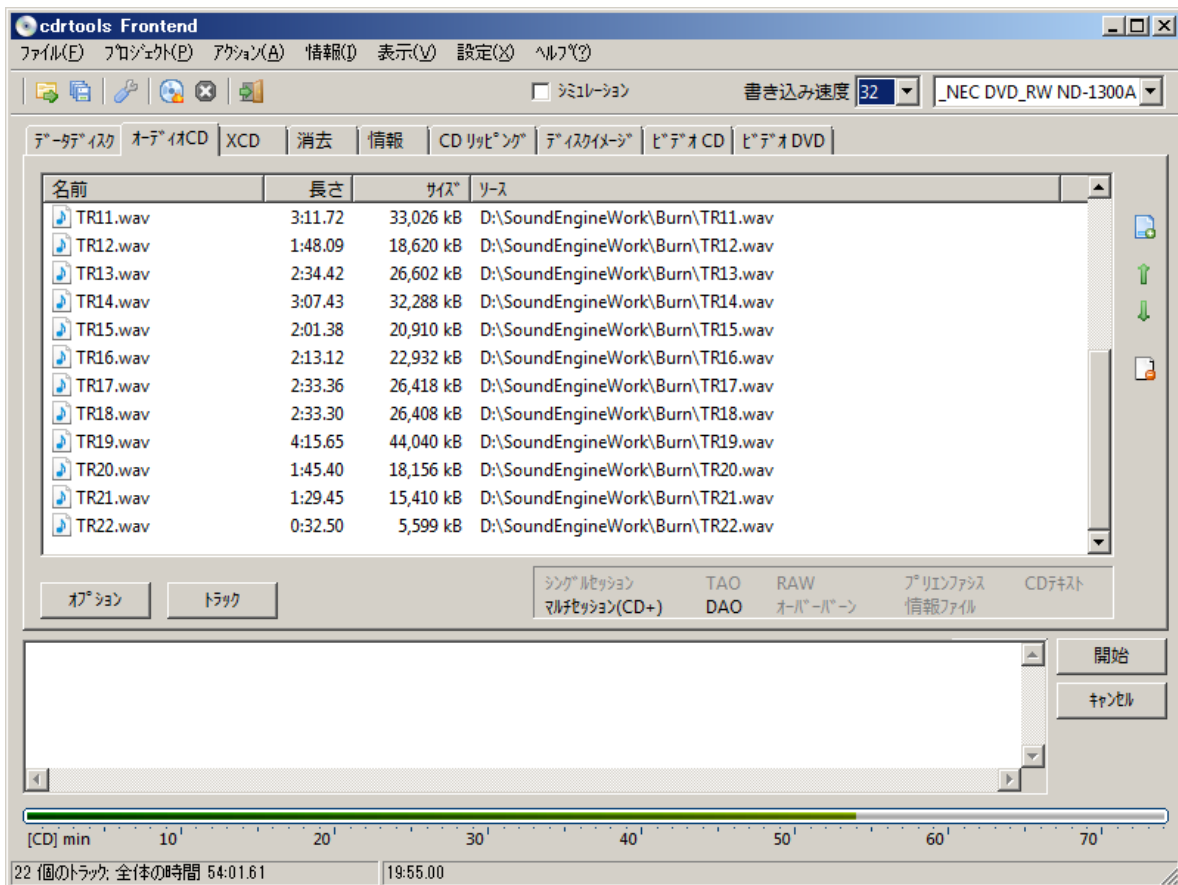
CD カテゴリの「マルチセッション(CD+用)」にチェックを入れ、書き込みモードカテゴリの「ディスクアットワンス」を選択状態にする。

オーディオトラックにCDテキスト情報を埋め込みたい場合は、オプションカテゴリの「CDテキストを書き込む」にチェック入れて、オーディオファイルを放り込んだ後にメイン画面の「トラック」ボタンを押下して設定するだけ。

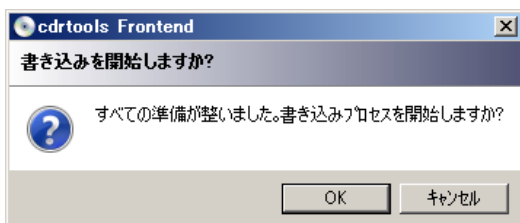
ノンストップCDにする場合も「トラック」ボタンで進んだ先で設定できる。デフォでは全曲共通2秒待機。

個別に時間を設定するには「ユーザー定義の一時停止」で個別設定する模様。

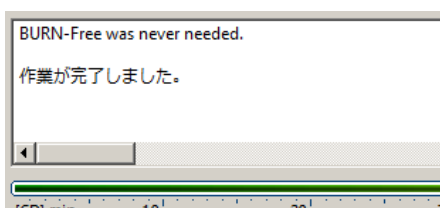
「待機しない」にすれば全トラック0秒設定になり、ノンストップCDにすることができる。



必要な情報を設定し、ドライブにブランクメディアを放り込んだら「開始」ボタンを押下する。



チェックが通ればこんなポップアップが出るので、「O K」を押下して焼きこみを開始する。



下段のメッセージ表示枠に「作業が完了しました。」と表示されたらオーディオ部分の焼きこみ完了。

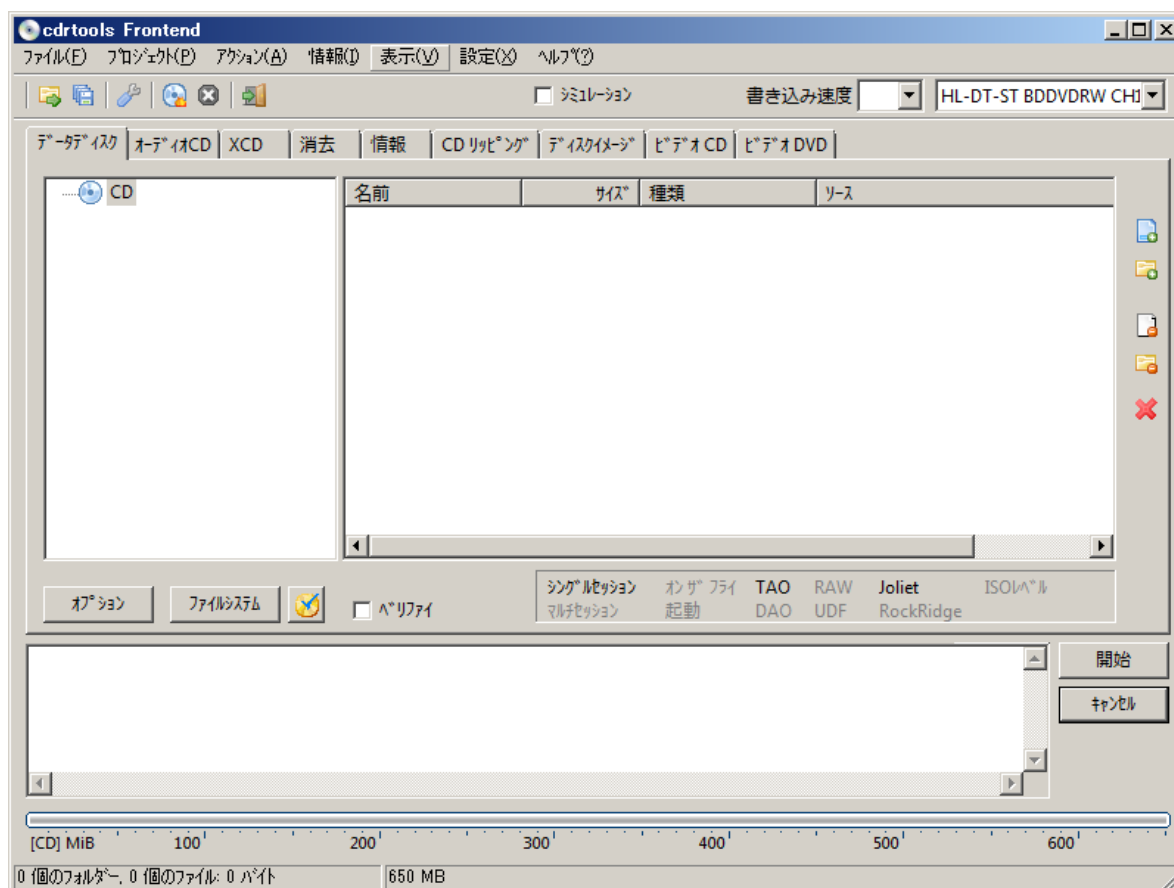
ここで、オーディオトラックの情報をすべて削除すること。 (CDRTFE を終了して再起動することでも構わない)

削除方法は、「プロジェクト」メニューの一番下にある「すべてクリア」を選択する。

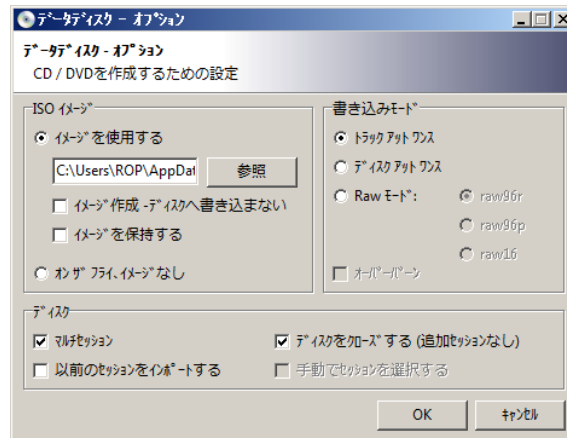
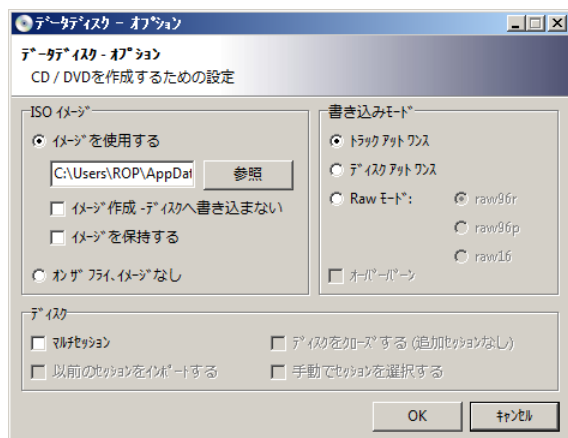
これをやらないと、データセッションを作成するときに MixCD と勘違いされ、Extra 部分に不要なトラック情報が作成され、ImageBurn 等でイメージ化する際にエラーする場合がある。

続けて作業するとせっかく作ったメディアをポイ捨てせざるを得ない状況になりかねません。

データセッションの作成

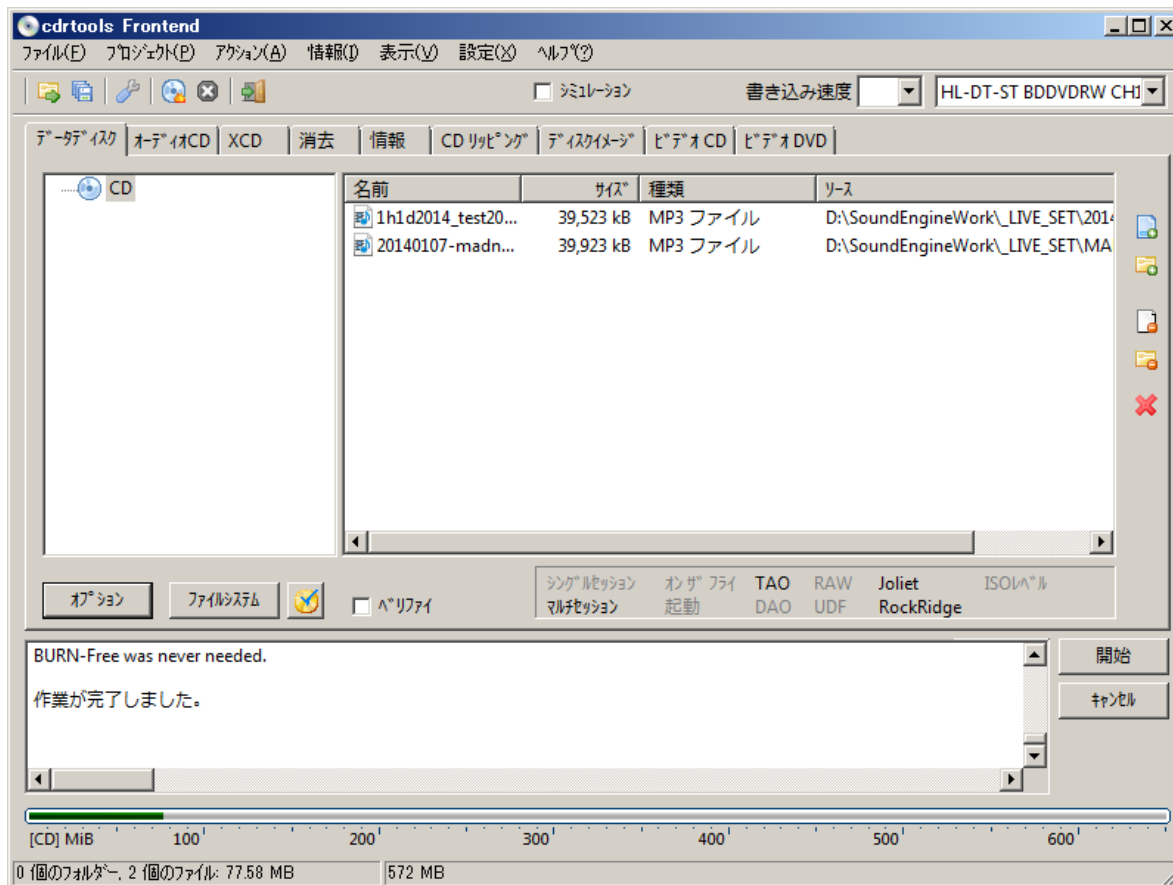


オーディオCDの情報をすべて削除したら、「データディスク」タブに戻り「オプション」ボタンを押す。

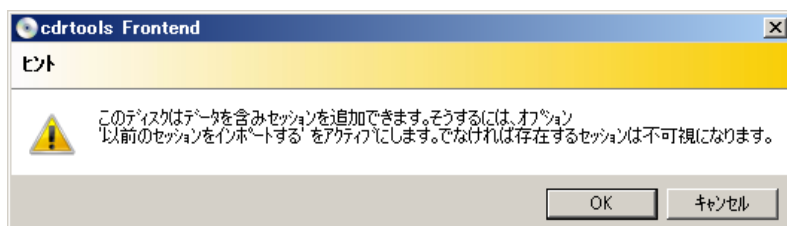


「マルチセッション」「ディスクをクローズする」にチェックを入れる。
「以前のセッションをインポートする」のチェックは外れた状態にしておく。
書き込みモードの設定は「トラックアットワンス」を選択する。

ファイルシステムを厳密に色々設定したい場合は「ファイルシステム」ボタンを押して設定すればいいが、基本何もいじらなくても大丈夫なようになっている。
いまどき ISO9660 厳守しないと駄目なドライブなんて無いだろうし。



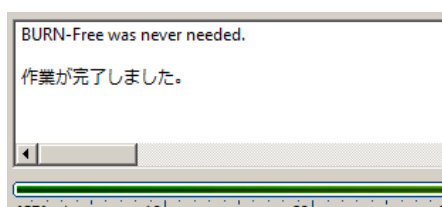
準備が出来たら「開始」を押下する。



EXTRA 仕様ではオーディオセッションは不可視でいいので「OK」を押下する。



最終確認が出てくるので、容量が足りていることを確認し「OK」を押下する。



オーディオセッション時と同じく、作業が完了したらメッセージ枠に「作業が完了しました。」と出る。これで完成。

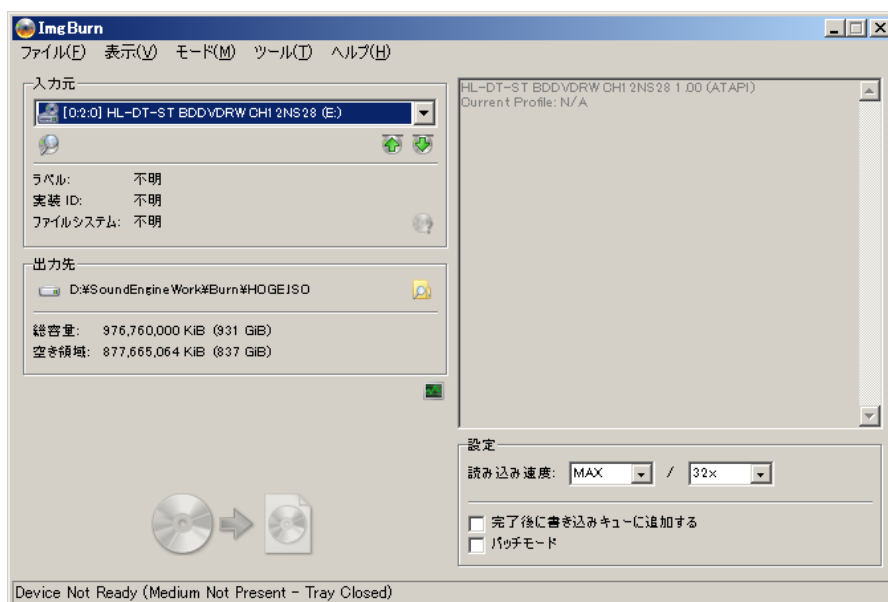
メディアを一度ドライブから抜き、再認識させてデータトラックが正しく認識されることを確認しましょう。

複製する場合

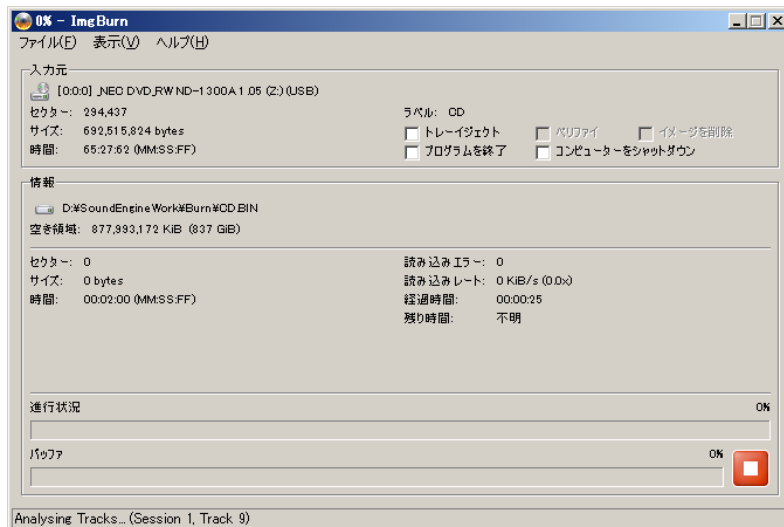
作成した CDextra 仕様のメディアは、ImgBurn 等の別ソフトウェアでイメージ化しておく。



「ディスクからイメージファイルを作成する」を選択。



入力元、出力先を選択して左下のアイコンボタンを押下する。



無事にイメージ化できれば完了。出力形式は CUE+BIN(+TXT) になる模様。

ドキュメント作成の背景

筆者が作成している同人音楽は「chiptune」というジャンルです。このジャンルの生成物は、MML ソースファイルとコンパイルされた音楽ファイルから成り立っており、それぞれ数十キロバイトで済んでしまう世界だったりします。

そのため、オーディオCD化したときの余白時間に埋め込むことが可能じゃないか、と前々から思っていたのですが、マルチセッション対応の焼きこみソフトがなかなか見つからず、悶々としておりました。

このたび、CDRTFE というソフトウェアでマルチセッション焼き (MixMode ではない) が可能であることが分かったので、喜び勇んでさっそく実験しました。

ヘルプやネット記事を見ながら作成してみたところ、たしかに作成することはできたのですが、ImgBurn でイメージ化しようとした際に、ゴーストのようにトラック情報が残っていてイメージ化に失敗しました。同じようにハマって無駄なメディアを生産してしまうことを防止するため、本ドキュメントを作成した次第です。

こんなレガシー技術を現役で使用するほうがどうかしてるんですが、仕様として作れるんだし chiptune 同人にて「購入者特典としてソース同梱する」用途で利用するのにちょうどいいと思います。

2014/04 R0Pchiptune Labo.

【追記】

2018/06

Windows10 で新バージョンをインストールしたら、USB ドライブを認識しなくなったので対応策を記載
書き込みモードの設定を記載。CDDA 時は DAO、CDdata 時は TAO で焼かないとダメなので。